

# 決 算 審 査 意 見

## 第 1 審査の対象

平成 30 年度 横芝光町病院事業会計決算

## 第 2 審査の期間

令和元年 8 月 21 日

## 第 3 審査の手続き

決算審査にあたっては、決算報告書、事業報告書及びその他関係書類について、決算の計数は正確であるか、予算の執行は適正で効率的に行われているか、また、財務に関する事務は公営企業法等の関係法令に準拠して作成され、かつ、事業の経営成績や財務状態が適正に表示されているかなどの諸点に留意し、関係帳簿その他証拠書類を照合精査するとともに関係職員の説明を求め、審査を実施した。

## 第 4 審査の結果

審査に付された事業会計決算報告書等は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は、関係諸帳簿その他証拠書類と照合した結果、誤りのないものと認められた。

また、事業の運営は、地方公営企業の原則に留意して適性に行われ、予算の執行もおおむね所期の目的に沿って執行されたものと認められた。

なお、決算の概要及び審査意見は別途記載のとおりである。

## 第5 決算の概要

### 1 業務実績

区 分		30年度	29年度	比較増減	
病 床 数		100 床	100 床	0 床	
	一 般	55 床	55 床	0 床	
	医療療養	45 床	45 床	0 床	
年 間 延 病 床 数		36,500 床	36,500 床	0 床	
	一 般	20,075 床	20,075 床	0 床	
	医療療養	16,425 床	16,425 床	0 床	
診療日数	入 院	365 日	365 日	0 日	
	外 来	244 日	244 日	0 日	
延 患 者 数	入 院	年 間	25,327 人	24,651 人	676 人
		1 日平均	69.4 人	67.5 人	1.9 人
	一 般	年 間	15,288 人	13,791 人	1,497 人
		1 日平均	41.9 人	37.8 人	4.1 人
	医療療養	年 間	10,039 人	10,860 人	△ 821 人
		1 日平均	27.5 人	29.8 人	△ 2.2 人
外 来	年 間	39,841 人	39,461 人	380 人	
	1 日平均	163.3 人	161.7 人	1.6 人	
入院・外来延患者数		65,168 人	64,112 人	1,056 人	
病 床 利 用 率		69.4 %	67.5 %	1.9 ポイント	
	一 般	76.2 %	68.7 %	7.5 ポイント	
	医療療養	61.1 %	66.1 %	△ 5.0 ポイント	
患者1人1日 当たり診療収入	入 院	24,629 円	24,877 円	△ 248 円	
	外 来	7,002 円	6,715 円	287 円	
医 業 収 益		989,504 千円	961,761 千円	27,743 千円	
医 業 費 用		1,503,903 千円	1,435,029 千円	68,874 千円	
収 支 差 額		△ 514,399 千円	△ 473,268 千円	△ 41,131 千円	

※1日平均の外来患者数は、各診療科目の診察日数で算出された1日平均の患者数の積算である。

※金額は、消費税及び地方消費税を含んだ数値である。

本年度の年間入院患者数は25,327人（1日平均69.4人）で、前年度と比べ676人（1日平均1.9人）の増加である。また、年間外来延べ患者数は39,841人（1日平均163.3人）で、380人（1日平均1.6人）の増加であり、病床利用率は69.4%で、前年度と比較して1.9ポイントの増加である。

患者1人当たりの診療収入は、入院で24,629円（対前年度比1.0%減）、外来で7,002円（対前年度比4.3%増）である。

### 2 決算状況

#### (1) 収益的収支及び支出

(収益的収入)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入率	前年度 収入率
病院事業収益	千円 1,669,133	千円 1,511,282	千円 △ 157,851	% 90.5	% 93.5
医療収益	1,148,802	989,504	△ 159,298	86.1	90.6
医療外収益	520,329	521,778	1,449	100.3	100.4
特別収益	2	0	△ 2	0.0	0.0

注：消費税及び地方消費税を含む。

病院事業収益は、予算現額 1,669,133 千円に対し、決算額は 1,511,282 千円（うち仮受消費税額 4,362 千円）である。予算現額に対する収入率は 90.5%である。

(収益的支出)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執行率	前年度 執行率
	千円	千円	千円	%	%
病院事業費用	1,570,970	1,521,076	49,894	96.8	97.4
医業費用	1,552,106	1,503,903	48,203	96.9	97.5
医業外費用	17,862	17,173	689	96.1	90.2
特別損失	2	0	2	0.0	99.9
予備費	1,000	0	1,000	0.0	0.0

注：消費税及び地方消費税を含む。

病院事業費用は、予算現額 1,570,970 千円に対し、決算額は 1,521,076 千円（うち仮払消費税額 23,787 千円）である。

予算現額に対する執行率は 96.8%で、不用額は 49,894 千円である。

支出の主なものは、医業費用の給与費である。

(2) 資本的収入及び支出

(資本的収入)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入率	前年度 収入率
	千円	千円	千円	%	%
資本的収入	132,779	132,776	△ 3	99.9	99.9
企業債	1	0	△ 1	0.0	100.0
出資金	132,776	132,776	0	100.0	100.0
補助金	2	0	△ 2	0.0	99.9

注：消費税及び地方消費税を含む。

資本的収入は、予算現額 132,779 千円に対し、決算額は 132,776 千円である。予算現額に対する収入率は 99.9%である。

(資本的支出)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執行率	前年度 執行率
	千円	千円	千円	%	%
資本的支出	237,485	231,902	5,583	97.6	99.5
建設改良費	45,060	39,478	5,582	87.6	98.7
企業債償還金	192,425	192,424	1	100.0	100.0

注：消費税及び地方消費税を含む。

資本的支出は、予算現額 237,485 千円に対し、決算額は 231,902 千円である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 99,126 千円は、過年度分損益勘定留保資金から補填している。

### 3 経営状況

#### (1) 収支

(総収益・総費用)

区 分	病院事業収益 (総収益)		病院事業費用 (総費用)		差引額 (純利益)	総収支比率 A/B
	金 額	A 前年度比	金 額	B 前年度比		
	千円	%	千円	%	千円	%
30年度	1,506,920	108.0	1,517,066	103.3	△ 10,146	99.3
29年度	1,395,608	107.2	1,468,939	106.8	△ 73,331	95.0

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

本年度の病院事業収益 (総収益) は 1,506,920 千円、病院事業費用 (総費用) は 1,517,066 千円で、本年度決算における純利益は△10,146 千円である。主な理由は、昨年度と比較して赤字額が減少した理由は、町一般会計からの繰入金の増額であり、実質上は、人件費等の増加により赤字額が増えている状況にある。

(医業収益・医業費用)

区 分	医業収益		医業費用		差引額 (医業損失)	医業収支比率 A/B
	金 額	A 前年度比	金 額	B 前年度比		
	千円	%	千円	%	千円	%
30年度	985,799	102.9	1,480,363	104.8	△ 494,564	66.6
29年度	958,202	110.9	1,412,179	105.7	△ 453,977	67.9

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

医業収益から医業費用を引くと、本年度の医業損失は 494,564 千円である。その損失を補填するため、他会計負担金などの医業外収益でこれを補ったものである。

なお、医業活動の成果を示す医業収支比率は 66.6% で、前年度と比較して 1.3 ポイントの減少である。

#### (2) 収益

(事業収益)

科 目	30年度		29年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	千円	%	千円	%	千円	%
1 病院事業収益	1,506,920	100.0	1,395,608	100.0	111,312	8.0
1 医業収益	985,799	65.4	958,202	68.7	27,597	2.9
2 医業外収益	521,121	34.6	437,406	31.3	83,715	19.1
3 特別利益	0	0.0	0	0.0	0	-

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

病院事業収益は 1,506,920 千円で、前年度と比較して 111,312 千円 (8.0%) の増加である。これを科目別にみると、医業収益は 985,799 千円で、前年度と比較して 27,597 千円 (2.9%) の増加である。主な理由は、入院収益で前年度と比較して 10,542 千円 (1.7%) の増加、外来収益で前年度と比較して 13,994 千円 (5.3%) の増加によるものである。

医業外収益は521,121千円で、前年度と比較し83,715千円(19.1%)の増加である。主な理由は、町一般会計からの繰入金が増額補正となったことである。

### (3) 費用

#### (事業費用)

科 目	30年度		29年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	千円	%	千円	%	千円	%
1 病院事業費用	1,517,066	100.0	1,468,939	100.0	48,127	3.3
1 医業費用	1,480,363	97.6	1,412,179	96.1	68,184	4.8
2 医業外費用	36,703	2.4	37,940	2.6	△ 1,237	△ 3.3
3 特別損失	0	0.0	18,820	1.3	△ 18,820	△ 100.0

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

病院事業費用は1,517,066千円で、前年度と比較して43,127千円(3.3%)の増加である。

医業費用は1,480,363千円で、前年度と比較して68,184千円(4.8%)の増加である。主な理由は、看護師を採用したことによる職員給与費の増加によるものである。

医業外費用は36,703千円で、前年度と比較して1,237千円(3.3%)の減少である。主な理由は、支払利息及び企業債取扱諸費の減少によるものである。

特別損失は0千円で前年度と比較して18,820千円の皆減である。

## 4 財政状態

### (1) 資産の部

科 目	30年度		29年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	千円	%	千円	%	千円	%
1 固定資産	2,855,817	92.9	2,966,476	87.4	△ 110,659	△ 3.7
2 流動資産	219,824	7.1	231,294	12.6	△ 11,470	△ 5.0
3 繰延勘定	-	-	-	-	-	-
資産合計	3,075,641	100.0	3,197,770	100.0	△ 122,129	△ 3.8

資産総額は3,075,641千円で前年度と比較して122,129千円(3.8%)の減少である。

## (2) 負債資本の部

科 目	30年度		29年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	千円	%	千円	%	千円	%
1 固定負債	207,147	6.7	385,804	12.1	△ 178,657	△ 46.3
2 流動負債	265,562	8.6	251,412	7.9	14,150	5.6
3 繰延収益	945,439	30.8	892,915	27.9	52,524	5.9
負債合計	1,418,148	46.1	1,530,131	47.9	△ 111,983	△ 7.3
4 資本金	2,895,051	94.1	2,895,051	90.5	0	0.0
5 剰余金	△ 1,237,557	△ 40.2	△ 1,227,411	△ 38.4	△ 10,146	0.8
資本合計	1,657,494	53.9	1,667,640	52.1	△ 10,146	△ 0.6
負債資産合計	3,075,642	100.0	3,197,771	100.0	△ 122,129	△ 3.8

### ア 負債の部

本年度の負債合計は1,418,148千円で、前年度と比較し111,983千円(7.3%)の減少である。

### イ 資本の部

本年度の資本合計は1,657,494千円で、前年度と比較して10,146千円(0.6%)の減少である。

## (3) 財務比率

### 財政比率の推移

区 分	算 式	30年度	29年度	28年度
自己資本 構成比率	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{総資本 (負債} + \text{資本)}} \times 100$	87.6	80.1	77.1
固定資産対 長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	101.6	100.7	96.4
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	294.0	391.4	3,266.6

自己資本構成比率は、総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、この割合が大きいくほど経営の安全性が高く、50%以上が望ましいとされる。本年度は87.6%となっている。

固定資産対長期資本比率は、長期の安全性を示すもので、この割合は100%以下が望ましいとされており、本年度は101.6%となっている。

流動比率は、短期債務に対する支払能力・運転資金の状況を示すもので、企業の経営上からは少なくとも流動負債に見合う流動資産があることが必要であり、200%以上が理想とされている。本年度は294.0%となっている。

## むすび

本年度の入院の延べ患者数は25,327人（1日平均69.4人）で、前年度と比較して676人（1日平均1.9人）増加している。病床利用率は、一般病床が76.2%（前年度比7.5ポイント増加）、療養病床が61.1%（前年度比5.0ポイント減少）となっている。

また、外来延べ患者数は39,841人（1日平均163.3人）で、前年度と比較して380人（1日平均1.6人）増加している。

経営状況について消費税を除いた損益計算書でみると、収益では、収益の大宗を占める医業収益が前年度と比較して2.9%の増加、医業外収益も19.1%増加している。収益総額は111,312千円（8.0%）増加の1,506,920千円となっている。一方、費用は、前年度と比較して医業外費用は3.3%減少しているが、医業費用は4.8%増加している。費用総額は48,127千円（3.3%）増加の1,517,066千円で、総体的な収支は10,146千円の赤字である。なお、医業収支は、494,564千円の赤字であるが、前年度と比較しても40,587千円の増額赤字である。

全国でも千葉県は医師・看護師不足が深刻化しており、中でも医療過疎とされる当地域の慢性的な医師・看護師不足は、診療の縮小や休止を余儀なくされるなど、病院経営はより一層厳しさを増している状況から、早急な対応が求められている。

当病院においては、医業収益は増加したものの、看護師等の増員や最低賃金引上げ等に伴う委託料の増加もあり、一般会計からの繰入もいまだに多額であり、繰入金縮減に向けてなお一層の取り組みが必要である。

また、今後の2025年問題に向けた更なる超高齢化社会に対応するため、医師の確保が最重要課題であることから、町と連携を図りながら更なる努力を願いたい。

自治体病院を取り巻く環境は非常に厳しいところであるが、平成28度末に策定した東陽病院新改革プランに則り、地域医療の拠点となるよう期待するものである。